
東方幻想レイディオ

yua

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方幻想レイディオ

【Nコード】

N4357Z

【作者名】

yua

【あらすじ】

幻想郷にラジオ！？

人間、妖怪、亡霊、神様、閻魔、あらゆる種族が警戒する中、一人と一匹が立ち上がる。

これは、ある人間の若者と可憐な妖怪の苦難と希望を描いたヒロイツクサーガである

な、訳もなくある変わった人間の若者と、それに付き合う苦労性な

突っ込み妖蟲のドタバタストーリーである。
原作からの性格改変、多分に混じった二次設定、メタ、が許せる人
はどうぞ御一読を。

さあ、一夜限りの物語を初めよう

第一回前半：東方幻想レイディオ始まりました

ある日ある時、畑で鍬を支えに汗を拭っていた一人の若者が呟きました。

「このままではいけない」

その傍で畦に腰かけ、足をブラつかせていた妖怪が言いました

「何が？」

若者は答えます

「人間の尊厳を取り戻さねばならない」

穏やかな陽射しが降り注ぐ一面の畑は、耕された土の香りと共にのどかさを強調していました。

幻想郷は今日も平和です

『と、いう訳で始まりました。『東方幻想レイディオ』DJは人里の村人Aと』

『ぱーそなりていは『闇に蠢く光の蟲』リグル・ナイトバグがお送りします』

パッパヤパッパー

パヤパヤパッパー

『つて、ちよつと待てーい！』

『おや、リグルン。最初っからテンション高目だね、いいぜ俺も負けられねえ。』

『勝ち負けじゃないよ！じゃなくて、最初のモノログは何！？』

『この『東方幻想レイディオ』の成り立ちを初めての人にも分かりやすい様に入れたんだけど・・・』

『本当に最初だけじゃん！聞いた人は誰一人理解不能だよ！！』

『いや、あるいは八意様や八雲様、レミリア様なら理解されたかも』

『ああ、あそこら辺はねえ。言わなくても勝手に納得しそう・・・つてレミリアも？』

『こつ運命を見て何とかかかんとか、後は「フツ、やはり運命通りか」とか言ったらば周りが戦慄するパターンで』

『微妙に馬鹿にしてない？それ』

『だからリグルはリグルンだと言うのだ』

『あつ、ムカツと来たよ。ノミ湧かせてやる』

『止めて！それやられると一ヶ月は安眠出来ないの。農閑期だけで許して』

『・・・まあ、いいけど』

『（やるのは決定なのね）』

『ていうか、一部の人だけに解つても仕方無いじゃない』

『でも、話すと長くないかな。ここまでこぎ着けるのに一年近くかかったし』

『だよねえ、紫さんとの交渉はしんどかったし』

『まさか、目の前で予行練習させられるとは。顔合わせてやるラジオ放送とか、赤面モノだったぜ』

『にとりも良くここまで協力してくれたよね。幻想郷中にラジオを配ってくれたし』

『とまあ、積もる話も出てきて最初のCMな訳よ』

『うわっ、本当だ。この話はおいおいだね』

『では、一旦CMです』

『また後半で〜』

第一回前半：東方幻想レイディオ始まりました（後書き）

いつも貴方の生活に

（ボーダー商事）

第一回後半：東方幻想レイディオ始まりました

パッパヤパヤッパ

パヤパヤパラッパ

『さあ、何事も初めて尽くしのこの企画。ぶっちゃけ、何やればいいのか分かりません。生まれて来てすいません』

『ギブアップ宣言はやーい！何か考えようよー！』

『いや、やろうやろう。とは言ったものの、いざ始まってみると「俺、やつちやつたかな」とか思ってしまう訳ですよ』

『何という弱気、いつもの村人Aらしくないぞ』

『へへっ、俺なんかどうせ只の背景さ。主人公補正なんて、本の中だけですよ』

『（まずいなあ）あ、そうだ。何でこのラジオを初めようとしたか話したらどうだろう？』

『ん？大した理由じゃ無いぞ。面白くないし』

『まあまあ、何せ僕達はラジオなんてやるのは初めて。聞く人達も初めて、お互いに初めてなんだから何でもやってみようよ』

『ここまで無音だったバツクに明るい音楽が流れ出す』

『そうだな、まずは何でもやってやれ。男は度胸』

『女は愛嬌ってね』

『テンション高くなって来たぜ！いくぜリグルン』

『行こう！村人A』

『俺（僕）達はこの坂を昇り始めたばかりだ！』

完！！

『待て待て待てー！早いから早すぎるから』

『あ、すまん。つい勢いで』

『せっかく一年もかけて準備して一時間もしないで終わるって無い』

よ

『芸人もビツクリの仕込みだな。笑えるぜ』

『笑えないから！本気で笑えない！！』

『どうどう、リグルンまずは落ち着け』

『ハアハア（水を飲む音）フワー・・・』

『水飲む時のリグルンの喉シエクシ』

『ブフワー！！』

『ぎゃおおう！目が目があー！！』

くしばらくお待ち下さい

『放送事故失礼しました』

『一回目からこれって先行き不安だなあ』

『失敗は成功の前ふりである。とも言っし、これはこの後は上手く行くというお告げやも』

『うん、根こそぎ間違ってるよね。失敗は成功の母にしようね』

『・・・やべ（凄い小さい声で）。リグルンは博識だなあ』

『素だったんだね。まあ、あれだよ何でこのラジオを始めようと思っただっけ』

『そうそう、いやあ人里では『幻想郷縁起』があるけど、あれって過去の事しか書かないじゃん？』

『ああ、アレね。僕達の弱点とか書かれると嫌なんだよね』

『まあ、便利なだけだよ。それに対して天狗さんの新聞は幻想郷の『現在』を書いてるじゃん？』

『まあ、そうかな。僕は読んでないから何とも言えないけど』

『縁起も重要なんだけど、新聞は結局は天狗さん視点だから人間の俺達が欲しい情報は少ない訳よ』

『そうなの？』

『妖怪の山に守矢神社が来た時も、二柱の神様の事とか妖怪の山の今後とかは良く書いてあったけど』

『ふむふむ』

『早苗さんの事とか、どんな神様かってのは結局、早苗さんが人里に来て初めて聞いた訳よ』

『あれ？なんか問題でもあったの？』

『大あり。俺達は弾幕だの能力だの無いのは知ってるね』

『まあ、滅多に無いみたいだしね』

『ぶつちやけ、俺達にはリグルンと守矢の神様の凄さの違いが分かるかね』

『はっ？』

『俺達はまあ戦闘力1とする』

『うん』

『リグルンが100で神様が10万』

『そ、そこまで差は無い・・・といいなあ（溜め息）』

『（萌えるなあ）で、結局俺達はどちらにも敵わない』

『???』

『ぶつちやけ100だろうが10万だろうが、シヨボい能力だろうが凶悪な能力だろうが怖い事には変わらない』

『ああ、成る程』

『天狗さんの新聞で神奈子様が軍神で、戦いを好むと言われたらいつ戦いを挑まれるか怖い訳』

『それで異変の後、人里が慌ただしかったのね』

『で、早苗さんが来てから質問攻めに徹してようやく安心出来たのね』

『信仰すれば守って貰えるんだっけ？』

『大雑把に言えばね。で、俺達が欲しかった情報は『強い神様』じゃなくて『どんな神様』かって事。』

『天狗さんの新聞は一面的な部分しか分からないからねえ』

『ふーん、何か色々飛び回ってるみたいだけどねえ』

『新しいネタを探すのも大事だけど、一つのネタを掘り下げるのも必要なんよ』

『それでラジオに繋がるのか』

『そう、天狗さんみたいに幻想郷中は飛び回れないし、新聞も配れ無いけど、これなら向こうから来てくれれば問題無し』

『・・・待ってもう一度』

『あれは俺が文々丸新聞を読んでる時だった（突然渋い声）』

『いや、そんな最初じゃなくて』

『突っ込み弱いなあ。飛び回れないし』

『もつと最後』

『来てくれればオールOKっすよ』

『そこおー！言い方違くないか？とか色々言いたいけど。え、何？誰か呼ぶの！？』

『ハハハ、二人だけで喋ってもネタなんかすぐ尽きちゃうでしょう。ゲストとして人間、妖怪、亡霊、神様、閻魔様呼べば幻想郷の「現在」を伝えられるじゃないか』

『謀ったな、この僕を謀ったな、村人A！！』

『ハハハ、坊やだからさ』

『僕は女だあー！』

『こんな可愛い子が女の子な訳な、ブベラハッ！！』

パッパヤパヤッパ

パヤパヤパラッパ

第一回後半：東方幻想レイディオが始まりました（後書き）

常に未来創ります
くにとり工務店く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4357z/>

東方幻想レイディオ

2011年12月15日02時46分発行